様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24　年　5　月　31　日現在

機関番号：２０１０４
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０７９１６６２
研究課題名（和文）日本とフィリピンの看護師および看護学生のアイデンティティに関する研究
研究課題名（英文）　Professional identity among nurses and nursing students in the Philippines and Japan.
研究代表者
高橋　美和（TAKAHASHI MIWA）
名寄市立大学・保健福祉学部・准教授
研究者番号：40322903

研究成果の概要（和文）：日本とフィリピンの間における経済連携協定（EPA）の合意に基づき、将来、フィリピン人看護師が日本の医療現場に就労し、同僚として日本人看護師と共に働く可能性が十分考えられる。そこで、日本人とフィリピン人看護師および看護学生の職業的アイデンティティの確立過程に差異があるかを比較した。その結果、日本人看護師および看護学生の職業的アイデンティティは、フィリピン人看護師および看護学生よりも有意に低かった。

研究成果の概要（英文）：Japan will be accepting nurses from the Philippines under an Economic Partnership Agreement (EPA) which was signed in September 2006. Based on this agreement, it is likely that Japanese nurses will work alongside Filipino nurses. Therefore, despite changes within the workplace environment, it is important to maintain the quality of nursing. Positive feelings develop from good relationships, deep trust and affinity which then lead to the formation of one's identity. On the other hand, negative feelings such as entanglement, opposition and disharmony can cause one's identity to collapse. The purpose of this study was to compare the professional identity among nurses and nursing students in the Philippines and Japan. Results showed that the professional identity among Filipino nurses and nursing students was stronger than among the Japanese counterparts.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学
キーワード：看護教育、職業的アイデンティティ、フィリピン、国際比較

１．研究開始当初の背景

多くの先進国が少子高齢化に伴い看護師など医療従事者の深刻な不足に直面し、外国人労働者を受け入れることによって自国の労働力を補っている先進国も多い。日本においても 2006 年 9 月、日本とフィリピン間で経済連携協定（EPA）が合意され、フィリピン人看護師の日本への受け入れが開始された。今後、フィリピン人看護師を同僚として一緒に働く可能性がある。しかし、職場環境

の変化があっても、看護、医療の質を低下させることなく、維持・向上させることが重要である。同僚と職業上抱えている悩みや問題を語り合うこと、関係性を深めること、親和感、信頼感の構築、他者との関係性の変容は、成長している自己、学びの実感などの肯定的な情動は、職業的アイデンティティの形成に繋がる。逆に、様々な背景をもつ異質な者同士の相互作用として働く葛藤、対立、不協和など相容れない情動は職業的アイデンティティの低下を招く。

看護師の職業的アイデンティティは、職場環境、同僚、チームの団結力などと関連があり、職業的アイデンティティを高めることは、バーンアウト、離職を予防し、ストレス耐用度、自己効力感など関連している事は明らかになっている。将来、日本人看護師とフィリピン人看護師が同僚として一緒に働いていく上で、職業的アイデンティティの差異、低下による様々な弊害を避けるため、看護師としての職業的アイデンティティを同じ程度確立していく必要がある。また、看護師としての職業的アイデンティティは、看護学生の時から確立し始める。そのため、日本人とフィリピン人看護師および看護学生の職業的アイデンティティに差異があるか調査を行い、比較した。

２．研究の目的

(1)日本人とフィリピン人看護師の職業的アイデンティティの比較

日本人とフィリピン人看護師の職業的アイデンティティを調査し、職業的アイデンティティの確立過程の実態を明らかにする。さらに、日本人とフィリピン人看護師の職業的アイデンティティを比較し、差異があるのか明らかにする。

(2)日本人とフィリピン人看護学生の職業的アイデンティティの比較

看護師としての職業的アイデンティティは、看護教育を受けている学生の時から育ち始めることから、日本人とフィリピン人看護学生の職業的アイデンティティを横断的・縦断的に調査し、職業的アイデンティティの発達、確立過程の実態を明らかにする。さらに、日本人とフィリピン人看護学生の職業的アイデンティティを比較し、差異があるのか明らかにする。

(3)日本とフィリピン人看護師および看護学生の職業的アイデンティティの発達、確立過程に関連する要因の比較

日本とフィリピンの職業的アイデンティの確立過程に関連する要因を明らかにする。

３．研究の方法

(1)パイロットスタディ

看護師および看護学生の職業アイデンティティ尺度に関する文献検討に基づき質問紙を作成した。その後、日本とフィリピンの看護師および看護学生にパイロットスタディを実施した。

(2)本調査

①データ収集

予備調査を経て選定した質問項目から看護師用および看護学生用の職業アイデンティティの質問紙を作成し、日本とフィリピンにおいて本調査を実施した。

②分析

統計ソフト PASW Statistics18.0 を用いて次の分析を行った。Cronbach's α 信頼性係数（以下、α 係数）による内的整合性の確認、職業的アイデンティティを国別に Mann-Whitey の U 検定、学年別に Kruskal Wallis 検定で分析した。また、職業的アイデンティティと自尊感情の項目との関連を Spearman 順位相関係数の検定にて分析した。

③倫理的配慮

研究者および対象者の所属施設の倫理委員会に申請、承認を得た。対象者には研究参加への自己決定、プライバシーの権利等について口頭と文書で説明し、研究協力の同意を得た。また、無記名、個別投函により質問紙を回収し匿名性と任意の参加を保障した。

４．研究成果

(1)日本人とフィリピン人看護師の職業的アイデンティティの比較

対象は、調査の同意が得られた日本の 3 病院の看護師 492 名及びフィリピン共和国マニラ市内の病院に勤務する看護師 99 名の計 590 名（男性 59 名、女性 531 名）から回答を得た（回収率 77.0%）。職業的アイデンティティの α 係数は 0.738 であった。性別は、日本人看護師が男性 34 名（6.9%）、女性 457 名（93.1%）、フィリピン人看護師が男性 25 名（25.3%）、女性 74 名（74.7%）、年齢は日本人 39.5±10.5 歳、フィリピン人看護師 38.7±10.6 歳、看護師の経験年数は日本人看護師 17.6±10.6 年、フィリピン人看護師 12.9±9.5 年であった。国別の職業的アイデンティティの総計は、日本人看護師 61.9±6.3、フィリピン人看護師 73.4±6.2、自尊感情の総計は、日本人看護師 30.2±2.7、フィリピン人看護師 31.9±3.1 であった。職業的アイデンティティ、自尊感情の総計は共にフィリピン人看護師が日本人看護師より有意に高かった（$p<0.001$）。しかし、男性看護師の自尊感情は 2 国間で有意差は無かった（$p=0.183$）。職業的アイデンティティの項目のうち、日本人看護師がフィリピン人看護師より有意に高かった項目は「時々、看護師としての自分が本当の自分ではないような気がする」「看護師として役に立たない気がする」「仕事の中で自分らしさを保つのは難しいと感じる」の

3 項目、フィリピン人看護師が日本人看護師より有意に高かった項目は「看護師としての目標はずっと変わらない」「患者と一体感を感じる」等の 15 項目であった。2 国間に有意差が無かった項目は「この仕事を生涯、続けようとは思わない」「この仕事は、生涯を通じての大切な経済的基盤である」の 2 項目であった。自尊感情の総計と職業的アイデンティティの項目は日本人看護師が 1 項目のみ、フィリピン人看護師は 8 項目と相関があった。

⑵日本人とフィリピン人看護学生の職業的アイデンティティの比較

対象は、調査の同意が得られた日本の国立大学 2 大学の看護学生 443 名及びフィリピン共和国マニラ市内の 2 大学の看護学生 569 名の計 1012 名から回答を得た（回収率 80.6%）。職業的アイデンティティのα係数は 0.923 であった。対象者の性別は、日本人看護学生が女性 375 名（84.7%）、男性 68 名（15.3%）、フィリピン人看護学生が女性 484 名（85.1%）、男性 85 名（14.9%）であった。学年は、日本人看護学生が 1 年次 68 名（15.3%）、2 年次 128 名（28.9%）、3 年次 128 名（28.9%）、4 年次 119 名（26.9%）、フィリピン人看護学生が 1 年次 68 名（12.0%）、2 年次 125 名（22.0%）、3 年次 218 名（38.2%）、4 年次 158 名（27.8%）であった。国別の入学目的は、看護師になるために入学した学生は、日本人看護学生が 318 名（72.6%）、フィリピン人看護学生が 537 名（94.9%）であり、フィリピン人看護学生は、日本人看護学生よりも有意に高かった（p<0.001）。国別の職業的アイデンティティの総計は、日本人看護学生 61.9±6.3、フィリピン人看護学生 73.4±6.2、自尊感情の総計は、日本人看護学生 30.2±2.7、フィリピン人看護学生 31.9±3.1 であった。職業的アイデンティティ、自尊感情の総計は共にフィリピン人看護学生が日本人看護学生より有意に高かった（p<0.001）。学年別の職業的アイデンティティの総計は、日本の看護学生は 1 年次、フィリピン人看護学生は 2 年次が最も高く、2 国共 4 年次が最も低かった。

職業的アイデンティティの項目のうち、日本人看護学生がフィリピン人看護学生より有意に高かった項目は「新聞やテレビの看護や看護師に関する記事が気になる」「看護関係者による社会的な事件が起こると、とても気になる」の 2 項目であった。フィリピン人看護学生が日本人看護学生より有意に高かった項目は「生涯、看護師として長く働き続けたい」「看護の仕事は私に適していると思う」「看護学生であることに誇りをもっている」等の 15 項目であった。2 国間に有意差が無かった項目は「高校生に看護師になりたい、と相談されたら勧める」「看護の仕事を通して人間としての成長ができると思う」「もっと看護について勉強がしたい」の 3 項目であった。

⑶ 日本人看護学生の職業的アイデンティティの発達、確立過程に関連する要因

対象者（443 名）の性別は、女性 375 名、男性 68 名、学年は、1 年次 68 名、2 年次 128 名、3 年次 128 名、4 年次 119 名であった。

看護師になるために入学した学生は、318 名（72.6%）であった。家庭内の医療従事者は、あり 123 名（27.8%）、なし 319 名（72.2%）、介護・看護経験は、あり 108 名（24.4%）、なし 335 名（75.6%）であった。

職業的アイデンティティの総計は、1 年次の中央値が 76.00（四分位範囲 68.25-82.00）と最も高く、4 年次が 70.00（64.00-78.00）と最も低かった。また、職業的アイデンティティの総計は、入学目的（p<0.001）、学年（p=0.002）と有意差があり、性別（p＝0.222）、医療従事者（p＝0.242）と介護・看護経験（p＝0.586）の有無と有意差はなかった。

職業的アイデンティティの項目別では、性別では女性が男性より「私は、生涯、看護師として長く働き続けたい」（p=0.004）、「私は看護の仕事を選んだことに満足している」（p=0.032）の 2 項目が有意に高かった。学年別では、11 項目で学年間に有意差があった。入学目的別では、「私は、看護関係者による社会的な事件が起こると、とても気になる」（p=0.253）以外の 19 項目、医療従事者の有無別では「看護の仕事は、私に適していると思う」（p=0.025）と「看護の仕事を通じて人間としての成長ができると思う」（p=0.004）の 2 項目、介護・看護経験の有無別では「看護の仕事は、私に適していると思う」（p=0.012）の 1 項目と有意差があった。

⑷フィリピン人看護学生の職業的アイデンティティの発達、確立過程に関連する要因

対象者（569 名）の性別は、 女性 484 名、男性 85 名、学年は、1 年次 68 名、2 年次 125 名、3 年次 218 名、4 年次 158 名であった。

看護師になるために入学した学生は、 537 名（94.9%）であった。家族内の医療従事者は、あり 266 名（46.9%）、なし 301 名（53.1%）、介護・看護経験は、あり 515 名（91.0%）、なし 51 名（9.0%）であった。

職業的アイデンティティの総計は、1 年次の中央値が 81.00（四分位範囲 73.25-86.00）、2 年次が 85.00（78.00-91.00）と最も高く、3 年次が 80.00（74.00-88.00）、4 年次が 80.00（72.00-85.00）であった。また、職業的アイデンティティの総計は、性別（p＝0.015）、学年、入学目的（p<0.001）と有意差があり、家族内の医療従事者（p＝0.171）と介護・看護経験（p＝0.124）の有無と有意差はなかった。

職業的アイデンティティの項目別では、性

別では女性が男性より「生涯、看護師として長く働き続けたい」(p=0.001)、「多少、給料が少なくても看護の仕事は良い仕事だと思う」(p=0.001)、「看護に生き甲斐を感じている」(p=0.003) の 3 項目と 1%水準、他 3 項目と 5%水準で有意差があった。学年別では 14 項目、入学目的別では 16 項目と有意差があった。介護経験の有無別では「生涯、看護師として長く働き続けたい」(p=0.049)、「看護学生として誇りを持っている」(p=0.015) の 2 項目と有意差があった。家族内の医療従事者の有無別では有意差が無かった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1 件）
①辻田　大介、入山　茂美、高橋　美和、看護学生の実習達成感と職業的アイデンティティの関連、看護教育、52 (1)、41-46、2011. 査読有

〔学会発表〕（計　19 件）
①高橋　美和、基礎看護学実習が職業的アイデンティティに与える影響－入学時および基礎看護学実習前後の変化－、第 22 回日本看護教育学会学術集会、2012 年 8 月 4・5 日（熊本）
②高橋　美和、日本人とフィリピン人看護師の職業的アイデンティティの比較、第 38 回日本看護研究学会学術集会、2012 年 7 月 7・8 日（那覇）
③高橋　美和、看護学生の外国人看護師受け入れに関する研究－経済連携協定（EPA）の認知度、受容度とその関連要因－、第 31 回日本看護科学学会学術集会、2011 年 12 月 2・3 日（高知）
④高橋　美和、フィリピン人看護学生の海外就労に関する研究、第 31 回日本看護科学学会学術集会、2011 年 12 月 2・3 日（高知）
⑤高橋　美和、基礎看護学実習Ⅱが看護学生の職業的アイデンティティに与える影響（第一報）－基礎看護学実習Ⅱ前後の職業的アイデンティティの変化－、第 42 回日本看護学会学術集会（看護教育）、2011 年 10 月 5・6 日（松山）
⑥高橋　美和、基礎看護学実習Ⅱが看護学生の職業的アイデンティティに与える影響（第二報）－職業的アイデンティティ、自尊感情と実習達成感との関連－、第 42 回日本看護学会学術集会（看護教育）、2011 年 10 月 5・6 日（松山）
⑦高橋　美和、フィリピン人看護学生の母国への就労に関する研究、第 42 回日本看護学会学術集会（看護総合）、2011 年 9 月 8・9 日（浦安）
⑧高橋　美和、フィリピン人看護学生の職業的アイデンティティの確立過程と影響要因、第 21 回日本看護教育学会学術集会、2011 年 8 月 30・31 日（大宮）
⑨高橋　美和、看護学生の職業的アイデンティティの確立過程と関連要因に関する研究、第 37 回日本看護研究学会学術集会、2011 年 8 月 7・8 日（横浜）
⑩高橋　美和、日本人及びフィリピン人看護学生における看護学実習の達成感に関する研究、第 30 回日本看護科学学会学術集会、2010 年 12 月 3・4 日（札幌）
⑪高橋　美和、フィリピン人看護学生の実習達成感に関連する要因、第 25 回日本国際保健医療学会学術大会　2010 年 9 月 11・12 日（福岡県宗像市）
⑫高橋　美和、呉　小玉、日本人看護学生の海外就労への関心度に関連する要因、第 25 回日本国際保健医療学会学術大会　2010 年 9 月 11・12 日（福岡県宗像市）
⑬高橋　美和、日本人とフィリピン人看護学生の職業的アイデンティティの比較、第 36 回日本看護研究学会学術集会、2010 年 8 月 21・22 日（岡山）
⑭高橋　美和、日本人看護学生及びフィリピン人看護学生の海外就労への関心度に関連する要因、第 20 回日本看護教育学会学術集会、2010 年 7 月 31 日 8 月 1 日（大阪）
⑮高橋　美和、看護学生の実習達成感と職業的アイデンティティに関する研究、第 19 回日本看護教育学会学術集会、2009 年 9 月 20・21 日（北見）
⑯高橋　美和、フィリピン人看護学生の日本への就労意欲に関連する研究、第 24 回日本国際保健医療学会学術大会、2009 年 8 月 5・6 日（仙台）
⑰高橋　美和、入山　茂美、フィリピン人看護学生の海外就労への関心度に関連する要因、第 49 回日本熱帯医学会大会・第 23 回日本国際保健医療学会学術集会合同大会、2008 年 10 月 25・26 日（東京）
⑱入山　茂美、高橋　美和、フィリピン人看護学生の母国での就労希望に関する研究、第 49 回日本熱帯医学会大会・第 23 回日本国際保健医療学会学術集会合同大会、2008 年 10 月 25・26 日（東京）
⑲辻田　大介、入山　茂美、高橋　美和、フィリピン看護学生の実習達成感と職業的アイデンティティとの関連、第 49 回日本熱帯医学会大会・第 23 回日本国際保健医療学会学術集会　合同大会、2008 年 10 月 25・26 日（東京）

〔図書〕（計　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
高橋　美和（TAKAHASHI MIWA）
名寄市立大学・保健福祉学部・准教授

研究者番号：40322903

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：